

1. とうもろこしのシカゴ定期は、6月には生育期の米国中西部の天候予報を材料に乱高下したが、おおむね370セント／ブッシェル前後で推移していた。その後、作柄に重大な影響を与える受粉期の天気予報を材料に値上がり値下がり値上り値下を繰り返す展開が続き、8月10日に米国農務省が発表した期末在庫が市場の予想を上回ったことから値下がりし、現在は340セント／ブッシェル前後となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、6月には米国産新穀大豆の作付が順調にすすんだため軟調な展開が続き330ドル／トン台で推移していたが、高温乾燥による作柄悪化の懸念により360ドル／トン台まで値上がりした。その後も米国中西部の天気予報を材料に堅調な展開が続いたものの、米国中西部の降雨予報による作柄改善見通しから値下がりし、8月10日に米国農務省が発表した期末在庫が市場予想を上回ったことから続落し、現在は330ドル／トン前後で推移している。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、5月には南米産穀物の輸送需要が一服したことなどから37ドル／トン前後で推移していたが、中国向け石炭などの輸送需要が引き続き好調であることに加え、南米産穀物の輸送需要が再び増加していることなどから、現在は40ドル／トンを超える水準で推移している。
4. 外国為替は、6月中旬には110円台であったが、7月の米雇用統計の結果を受け、米国の利上げペースが緩やかになるとの見方から113円台まで円安がすすんだ。その後、米国経済政策への先行き不透明感や北朝鮮等の国際紛争リスクの高まりなどにより円高となり、現在は109円台となっている。

